

第79回 経営協議会議事要録

日 時：令和2年9月17日（木） 15：00～17：05

場 所：Microsoft Teams の「経営協議会」チーム（Web 会議）

出席者：櫻井学長、辻田理事（総務・財務・企画担当）、岩崎理事（教育担当）、本家理事（研究・評価・医療担当）、受田理事（地域・国際・広報・IR担当）、宮井理事（ワークライフバランス担当）、執印医学部附属病院長
岩瀬委員、河合委員、川村委員、中島委員、野並委員、原委員、山崎委員

欠席者：岡村委員、中澤委員

陪席者：関監事、杉本監事、小山副理事（総務・財務担当）・事務局長、総務部長、研究国際部長、学務部長、医学部・病院事務部長

〔配付資料〕

- 資料 1-1 高知大学「大学改革実施検討本部」の設置について
- 1-2 “高知大学グランドデザイン2030”（仮称）の策定に向けて
- 資料 2-1 理事特別補佐に係る手当の新設に伴う関係規則の一部改正について（案）
- 2-2 関係規則新旧対照表（案）
- 資料 3-1 医療職員の職名追加等に伴う関係規則等の一部改正について（案）
- 3-2 関係規則新旧対照表（案）
- 資料 4-1 勤務時間管理員に関する規則の一部改正について（案）
- 4-2 関係規則新旧対照表（案）
- 資料 5-1 令和元事業年度財務諸表の承認について
- 5-2 キャッシュ・フロー計算書（修正後）
- 資料 6 令和2年度資金管理計画表（変更案）
- 資料 7-1 学部・研究科等の現況調査表（教育）
- 7-2 学部・研究科等の現況調査表（研究）
- 7-3 研究業績説明書
- 7-4 中期目標の達成状況報告書
- 7-5 第3期中期計画及び年度計画進捗状況一覧表

議事に先立ち、再任された関監事及び新任の杉本監事から挨拶が行われた後、学長から、国立大学法人高知大学経営協議会規則第4条第3項記載の経営協議会議長の代理として辻田理事が指名された。

引き続き、第77回経営協議会及び第78回経営協議会の議事要録（案）の確認が行われ、異議なく承認された。

〔議題〕

1. 「大学改革実施検討本部」の設置について

学長から、資料1-1、1-2に基づき、高知大学「大学改革実施検討本部」の設置について説明が行われた後、辻田理事から設置の趣旨及び目的や今後のスケジュールについて、続けて各担当理事から所掌する検討項目について詳細な報告が行われた。

委員より、数理・データサイエンス教育については、文系の学生にも学部教育から必修として基礎を学ぶように徹底してほしいとの意見があった。また、SDGsへの貢献について、自然科学系だけでなく人文社会科学系の学部も持つ総合大学として、幅広い専門的な知を活か

しながら、SDGs という枠組みを使って地域の課題を解決していけるように頑張ってもらいたいとの意見があった。また、外国から留学生を積極的に受け入れることに徹底的に取り組むとすれば、多くの授業を英語で実施するとともに、教員だけでなく事務職員も英語で対応できるようになる必要がある。検討にあたっては、現実的に機能する仕組みを考える必要があるとの意見があった。

委員より、高知県の人口構成は、2030 年代に大学生になる人数は平均 5,200 人だが、2060 年代には 2,800 人になると予測されており、高知県のみを対象に教育研究に係る計画を立てるのは、市場的に見て非常に厳しくなってくる。オンライン授業が普及し、今後、キャンパスの概念が大きく変わってくることを考慮すると、高知県だけでなく広く地域の課題に専門的に取り組む大学であると位置づけていくことも重要ではないかとの意見があった。また、校友会の立ち上げについて、高知県以外で活躍する卒業生が多いことを考慮すると、キャンパスに来てもらうだけでなく、卒業生を各地域で結び付ける受け皿となる仕組みを考えていくことも大事であるとの意見があった。

委員より、SRU (Super Regional University) を目指すにあたり、分かりやすく表現するために、サブタイトルやキャッチコピーのようなものも検討してはどうかとの意見があった。

委員より、AI が全てを解決するものではないということがコロナ禍でより明確となった。今の産業に直結するイノベーションを創出していくには、工学的・情報処理的な「データサイエンス力」だけでなく、「データエンジニアリング力」、「課題解決のビジネス力」の三つがうまくバランスが取れる必要があると言われている。これらの三つを合わせた構成的な学びにも取り組んでどうかとの意見があった。

2. 理事特別補佐に係る手当の新設に伴う関係規則の一部改正について

辻田理事から、資料 2-1、2-2 に基づき、理事特別補佐に係る手当の新設に伴う関係規則の一部改正について説明が行われ、審議の結果、承認された。

3. 医療職員の職名追加等に伴う関係規則等の一部改正について

辻田理事から、資料 3-1、3-2 に基づき、医療職員の職名追加等に伴う関係規則等の一部改正について説明が行われ、審議の結果、承認された。

4. 勤務時間管理員に関する規則の一部改正について

辻田理事から、資料 4-1、4-2 に基づき、勤務時間管理員に関する規則の一部改正について説明が行われ、審議の結果、承認された。

5. 令和元事業年度財務諸表の承認について

事務局長から、資料 5-1、5-2 に基づき、令和元事業年度財務諸表の承認について、令和 2 年 6 月 25 日開催の第 77 回経営協議会に提出した財務諸表のうち、キャッシュ・フロー計算書を一部修正のうえ、令和 2 年 8 月 31 日付けで文部科学大臣から承認された旨の報告が行われた。

6. 令和 2 年度資金管理計画の変更について

事務局長から、資料 6 に基づき、令和 2 年度資金管理計画の変更について説明が行われ、審議の結果、承認された。

7. 第 3 期中期目標期間の教育研究の状況に係る報告書について

本家理事から、資料 7-1～7-5 に基づき、第 3 期中期目標期間の教育研究の状況に係

る報告書について報告が行われた。

8. その他

- ・事務局長から、附属学校園超過勤務手当の対応について報告が行われた。
- ・事務局長から、国立大学法人ガバナンス・コードへの対応について報告が行われた。
- ・事務局長から、国立大学法人の借入・債券発行による資金調達制度の変更について報告が行われた。
- ・事務局長から、令和3年度文部科学省概算要求の今後のスケジュールについて報告が行われた。
- ・学長から、経営協議会の次回開催予定について説明が行われた。

9. 大学運営に関する意見交換

事務局長から、意見交換資料に基づき、「学生定員の未充足」、「人件費の増加」及び「新たな収益源の確保」の3点に焦点を当てた「令和元年度決算分析」について説明が行われた後、意見交換が行われた。

各委員からの主な意見は以下のとおり。

「学生定員の未充足」について

- ・修士課程の定員未充足により収入面で厳しくなることは理解できるが、その前段階として、大学院でどのような学問分野をカバーし学生数はどの程度が良いのかを議論するなど、大学院教育を今後どのようにしていくかを考える方が大事なのではないか。
- ・意見交換の分析資料にもある通り、大学院への進学は景気の影響に大きく左右され、景気が良いと大学院に進学する学生も少なくなる。新型コロナウイルスの流行により景気も悪化しており、大学院の定員未充足については、今は様子見するのが良いと思う。
- ・諸外国と比較すると日本人学生の学ぶ意欲が大きな課題だと思うので、その意欲を高める方策を考えていく必要があるのではないか。
- ・自身が大学院に進学した際、周囲の大学院生は研究者を志望している割合が非常に高かった。日本では修士号や博士号が企業や社会であまり評価されない土壌がある。このため、大学院進学後の将来像を描きにくく、定員未充足の原因の一つとなっていると思う。

「人件費の増加」について

- ・先進国間で比較すると日本の給与水準は非常に低く、優秀な人材を集めるには水準を上げる必要があるが、総額人件費をコントロールして赤字を避けなければならない。そのためには、人事評価の仕組み等による給与分配のメリハリが大事になってくる。短いスパンでは難しいが、長期的な視点で教育水準を下げない範囲での定員管理が必要である。
- ・これまでの教育組織改組により人件費が膨張したことは、当然で仕方のないことだと思う。改組により必要性の下がった分野もあるため、今後、退職した教員は原則不補充とし、新たに教員を採用する際は、大学が重点化する分野に絞ることを徹底し、高知大学の強みをクリアにしていくことが大事だと思う。
- ・教員の高齢化が日本の大学で課題となっている。高知大学の教員の年齢構成のデータを出してもらい、将来の人件費の見込みを提示してもらう方が議論しやすいのではないか。
- ・日本企業でもジョブ型の賃金体系の導入が進んでいる。また、テレワークの普及により、中間層の人材が担ってきた業務のデジタル化・省力化が進展し、日本の産業を支えていた中間層が消えてしまうという事態が、想像以上に早く進んでいると感じている。大学教員の採用においても、単に過去の実績を見て人員を補充するのではなく、急激に変化する社会に対応するため、教員構成も変えていくべきだと思う。

「新たな収益源の確保」について

- ・その他の事項で報告のあった国立大学法人の債券発行について、高知大学でも検討できないか。また、クラウドファンディングの活用や、高知大学が立ち上げを目指している校友会を通じた寄附金収入の強化を目指してはどうかと思う。

以 上